

2020 年度(令和 2 年度)

事業計画書

(第 10 事業年度)

自 2020 年 1 月 1 日

至 2020 年 12 月 31 日

公益社団法人企業メセナ協議会

<目次>

新たな 30 年に向けて	2
重点目標と施策	2
I. 組織運営	5
II. 事業計画	
調査・研究	6
認定・顕彰	9
会員ネットワーク/セミナー	11
相談・協力・コンサルティング	13
助成	14
広報	16
III. 年間スケジュール	18

新たな 30 年に向けて

本年は企業メセナ協議会が 1990 年に設立されてから 30 周年となる記念すべき年である。また、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、スポーツだけでなく企業メセナを含むさまざまな文化プログラムが多数実施されることで芸術・文化が注目を集める年でもある。

協議会は 2017 年より新たな体制になり、創造的で活力にあふれた社会、多様性を尊重する豊かな社会の実現に寄与するという目的を着実に実行するべく、事業内容や連携体制を整えてきた。3 年目となる本年度も引き続き各事業の連携及び広報強化に努めながら、調査・研究、認定・顕彰、助成を重点事業とし、それぞれの事業の改善と充実を図りながら基盤を整え、さらに活動の価値を高めて行く。

同時に文化の祭典でもあるオリンピック・パラリンピックの開催を契機に、その盛り上がりが一過性のものではなく、今後さらに芸術・文化が発展する機会とすることが重要であり、その為にも協議会は今まで以上に行政・自治体、文化関係団体、アーティストなどさまざまなステークホルダーとの密なコミュニケーション、連携に努め、ネットワークの強化を図って行く。

現在グローバルに進む CSR、ESG、CSV、また社会課題の解決を目指す SDGs という大きな流れの中で、芸術・文化の果たす役割の重要性を再認識し、協議会だからこそできる社会への貢献（芸術・文化による社会創造）を考え、これからの 30 年に向けた事業を展開するための新たなスタートの年とする。

■重点目標と施策

1. 事業活動の見直しを継続し、各事業との連携をさらに強化

社会の動き、変化、潮流を見据え、短期的・長期的視点から各事業を見直し、内容の充実を図る。同時に活動内容、情報を共有し、活動成果の最大化を図る。

① 調査・研究

調査報告の分析・活用の強化

- ・業務の効率化を図りながら、日本の企業のメセナ活動をグローバルな視点からの比較も含め、より深く分析し、企業メセナの価値の発信、周知を図る。
- ・メセナの社会的価値、企業にとっての価値を掘り下げ、メセナ活動への理解を促進し、メセナ活動の活性化につなげる。

② 認定・顕彰

- TIM では認定活動の増加を図るとともに、今後に向けてTIMとアワードの改善を行う
- ・TIMでは、できるだけ多くの企業メセナ活動を掘り起こし、全国で社会に貢献している姿を示していく。
 - ・アワードでは、優れた活動を顕彰することにより、今の企業メセナの姿を社会に発信していく。
 - ・現在の制度についてさらに検討を加え、改善を行う。

③ 助成事業

- 利用者、管理者双方にとって利用しやすいシステムへの改善を継続して行いながら、協議会ならではの助成制度をよりわかりやすく周知し、今まで以上に幅広く活用されるようにする。
- ・全体を体系的に整理し、より活用されやすいかたちで運用できるようにする。
 - ・協議会の助成制度の特徴について理解を促進し、より多くの活用を図ることで全国で行われているさまざまなメセナ活動の活性化に貢献する。

④ 広報

企業メセナ、協議会の発信力強化

HPリニューアルを機に、より積極的な広報を行い協議会のプレゼンス向上を図る

- ・常に広報活動の効果を分析するように努め、協議会全体として最大の効果が発揮できるよう戦略的な広報活動を行う。
- ・HPリニューアルについては、改訂前と後の変化なども含めた分析やノウハウの蓄積を通じて、適宜改善を行う。
- ・各事業の連携をさらに進め、効果的でタイムリーな発信を行う。

⑤ 相談・協力 / コンサルティング

- ・メセナの専門機関として、集積している情報とネットワークを活用し、企業をはじめ芸術・文化振興にかかわる内外機関などからのさまざまな相談、協力の要望に応え、それぞれの活動のサポート、促進を図る。

- ・外部との連携体制を強化する。
- ・多様な交流を積極的に進め、必要に応じて外部専門家を活用する。

⑥ 30周年記念事業

- ・協議会機関誌「メセナ note」(1990年6月1日～2014年3月)などの電子データ化を行うとともに情報を活用しやすいよう整理し、可能なものからWeb公開を行う。
- ・過去に出版し、現在も需要がある冊子を広く活用してもらうためにリニューアルする。
 - 「企業メセナへのアプローチガイド」(2007年3月30日発行)
 - 「メセナを知る本」(2010年12月3日発行)
- ・30周年特別講演会、レセプションなどの実施。

2. タイムリーで有効な「場」、「情報」の提供を行い、プラットフォーム機能を充実させる

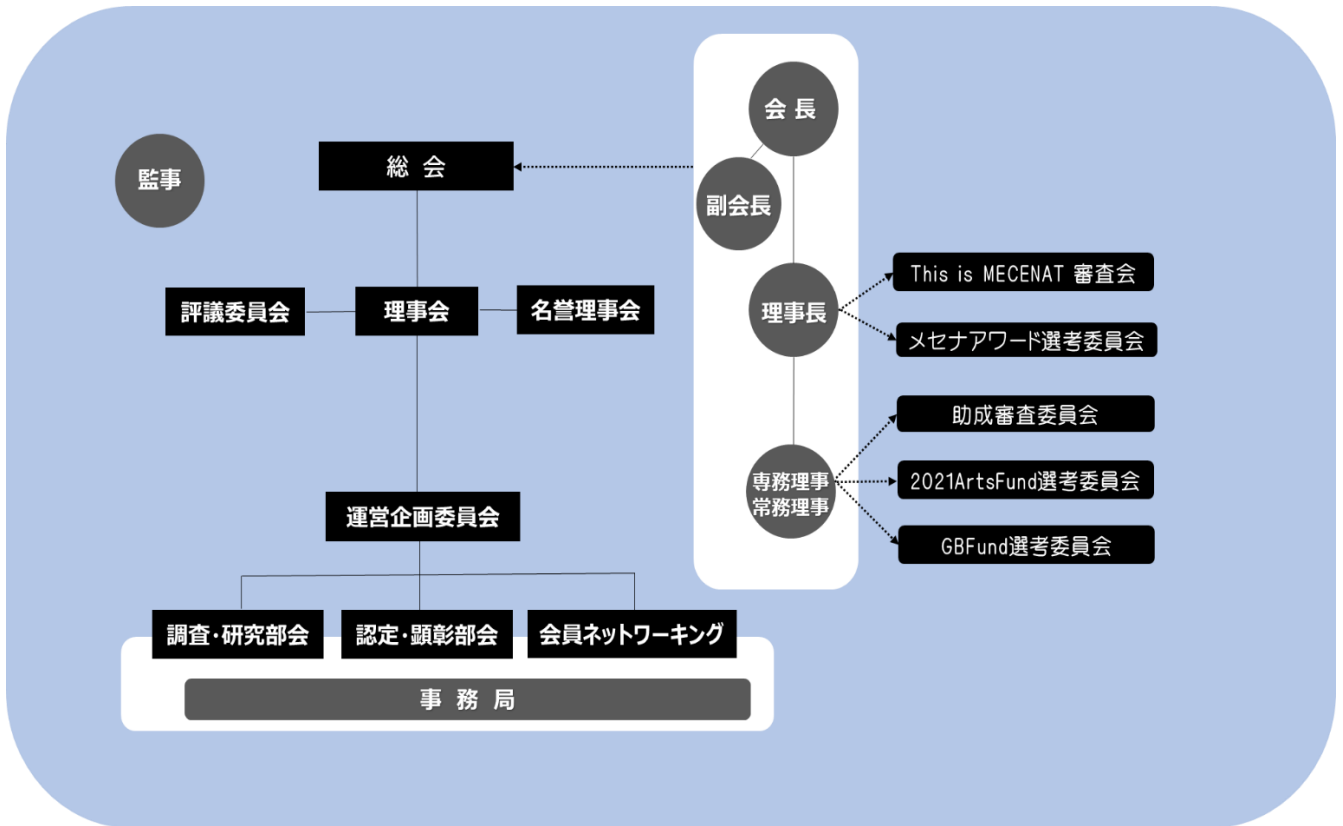
会員企業・団体をはじめ芸術・文化振興にかかわる内外機関など、さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、タイムリーで有効なセミナー、コーディネート、コンサルティングなどを行い、国内外の芸術文化振興を促進させるプラットフォームとしての役割を果たす。

- ・会員とのコミュニケーションを強化し、適宜必要とされる場、情報の提供を行う。
- ・部会、ワーキンググループの活性化を図る。
- ・芸術・文化関連団体などとの連携を深め、セミナー、視察などを通じて芸術・文化振興の促進に寄与するよう努める。

3. 事務局の専門性の向上を図り、協議会としての価値を高め発信力を強化する

協議会に蓄積された情報や知見を活かすだけでなく、メセナを通じてSDGsなど幅広い視点から社会の動向や企業のニーズを見定め、企業メセナおよび協議会の社会的なプレゼンスの向上を図り、発信力をさらに高めていく。

I. 組織運営



1. 総会

会員が一堂に会し協議会の事業・運営について合意形成をはかるとともに、会員相互に交流する機会と捉えて、芸術文化振興に関する情報提供と、メセナ推進についての意見交換ができる場となるよう努める。[2020年3月開催]

2. 理事会

中期経営計画(2016.1.~2020.12)に掲げたミッションに照らし、協議会の事業推進と組織拡大に努める。[通常理事会:2月、12月/ほか臨時理事会]

3. 役員会

理事を中心に、名誉理事・評議員・顧問を含めた役員合同会議を行うなど、協議会運営について幅広く指導を仰ぎ、あわせて情報の共有をはかる機会とする。[年1回以上開催]

4. 運営企画委員会

各部会・ワーキンググループ・プロジェクトチームの事業展開について共有・協議し、事務局とともに理事会への提案を行うなど、芸術・文化振興に関する諸課題について実質的な議論を

行う。[年 4 回程度開催]

5. 部会・ワーキンググループ、プロジェクトチーム

部会・ワーキンググループは各事業の方向性や制度設計等について議論し、事務局の実務の遂行に対してアドバイスをを行う。

- 調査研究部会:メセナ活動実態調査および事例研究等の推進
- 認定顕彰部会:認定制度「This is MECENAT」顕彰事業「メセナアワード」の推進
- 会員ネットワーキンググループ:会員相互のネットワーク形成に資する活動を展開

II. 事業計画

【調査・研究】

■目的

日本の企業メセナの現状と可能性について調査・分析。日本のメセナ活動の状況・トレンドを理解し、またメセナ活動それぞれの固有の価値を抽出する。企業メセナの多様な価値を顕在化するとともに、今後の企業メセナ推進の一助となるよう、情報の整備を行う。

■事業内容

1. メセナ活動実態調査

・令和 2 年度文化庁委託事業／委託期間:2020 年 4 月～2021 年 3 月

全国のメセナに取り組む企業・企業財団を対象とする定期調査。前年度の各社・団体の取り組み実態について、例年 6 月頃、企業約 2,000 社・企業財団約 300 団体へアンケート票を配布。夏から秋ごろに事務局での集計を経て、調査研究部会で議論を行い、翌春頃に集計データから見える最新トレンドを発表する(報告書『Mecenat Report』発行、報告会の実施)。

調査結果は国内におけるメセナに関する唯一の統計調査として、企業・企業財団、国、自治体、文化機関等で活用されている。

2. メセナに関する事例研究(メセナ・アソシエイト)

・令和 2 年度文化庁委託事業／委託期間:2020 年 4 月～2021 年 3 月

2014 年度より実施している、メセナに関する事例研究。メセナ研究者育成を目的に、毎年公募で募った若手外部研究員と協働し、「メセナ活動実態調査」や協議会把握データの活用、メセナ企業等へのヒアリング調査により、専門性を活かしメセナの価値を掘り下げる事例研究を行う。

3. メセナに関する国際調査

・令和2年度文化庁委託事業／委託期間:2020年4月～2021年3月

国外における企業メセナや中間支援組織の活動について、基礎データを収集し、日本との比較を行い、日本の企業メセナの位置づけ、国際的なトレンド・兆候について情報収集を行う。

(対象国:アメリカ・イギリス・フランス・オーストラリア等)。

4. 情報ライブラリーの運営

・協議会発行物やメセナ・文化政策・アートマネジメント等に関する書籍、企業・企業財団のメセナ資料の管理、利用者対応を行う。

■課 題

1. 「メセナ活動実態調査」について、新規にメセナを行っている企業や近年回答のない企業等(活動を行っている)の掘り起こし。また、集計データの十分な分析と近年の兆候をとらえるための考察時間の確保。
2. 会員企業に対する調査結果の十分なフィードバック、および協議会各事業での活用機会の拡大。
3. 情報ライブラリーの蔵書や資料の整理および活用方法の改善。

■重点施策

1. 「メセナ活動実態調査」のデータ集計をシステム化し、作業の効率化を図る

1991年の調査開始から2019年度調査まで、郵送、Fax、メールで調査票送付と回収を行い、事務局内で既定のフォームへ手入力でデータを整理し、集計及び分析のためのデータ化を外部に委託して行ってきたが、これらの作業フローを見直し、システム化することで内製化するとともに業務の効率化を図り業務時間を短縮する。

2. 「メセナ活動実態調査」の回答率向上と分析強化

- ① 回答率の向上を目指し未回答企業および財団の掘り起こしを行うなど、実施方法の改善を行う。
- ② システム化などで業務の効率化を図り、調査結果についての議論、追加調査を行うなど、より深い分析を行うように努める。
- ③ 調査部会のメンバー拡充を図るとともに、適宜外部の専門家を交えた議論の機会を設けるなど、調査の質の向上を図る。

3. 調査報告書の活用機会の向上、内容の充実

- ① 年 1 回程度、調査部会と連動した会員向け勉強会を実施。前年度「メセナ活動実態調査」の回答傾向や具体的事例を取り上げ、ゲスト講師を招くなど実態調査を深堀する。
- ② 調査報告書の送付先を昨年度に続き公益財団、芸術団体、大学を含む研究機関などへも広げ、メセナ活動の意義や実施団体の実態などについてより広く周知する。
- ③ 調査報告書送付時のアンケートを継続して実施し、活用状況や要望を把握するように努める。また、調査結果に基づき、必要に応じて回答企業へヒアリングを行う。
- ④ 調査報告書の内容については、アンケート結果や他のレポートなどを参考にしながら、内容の充実に努める。

4. メセナ・アソシエイト制度の充実を図り、成果も含め外部への広報強化

- ① 本年度も様々な立場から、メセナ活動の今日的課題をテーマに事例研究を行い、少人数での密度の高い共同研究を目指す。
- ② 2014 年度の開始から本年度で 7 期目になる。同制度の充実を図るため、協議会アソシエイト(海外、国内)を加える。協議会アソシエイトには協議会のテーマ設定により、調査レポートを作成してもらい、Web 掲載・セミナー開催など広く公開し、若手研究者の育成や最新の情報を得ることにより国内メセナ活動の活性化などに貢献していく。
- ③ 協議会の Web リニューアルに合わせて、前年度までの成果をわかりやすく効果的に掲載し、企業担当者だけでなく、研究者、芸術・文化関係者などにも役立てるようにする。また、必要に応じて外部 Web サイトとの連動やリンクを検討するなど成果をできるだけ活用してもらえようとする。

5. 国外における企業メセナや中間支援組織の基礎データの収集と Web での公開

諸外国の企業メセナや中間支援組織の活動について、基礎データを Web 調査によって収集し、最新情報や日本との比較情報を日本語版および英語版 Web サイトで公開する。

6. 情報ライブラリー蔵書整理、Web ライブラリーと連動した活用

- ① 2018 年度に作成したライブラリー整理ルールに基づく蔵書整理を進めながら、Web ライブラリーと連動した運用ルールを策定する。
- ② 蔵書の 카테고리やラベル表記を見やすくするなど、より利用しやすい環境を整える。

【認定・顕彰】

■ 目的

メセナの姿およびメセナが社会創造に果たしている役割を、活動事例から明らかにする。認定制度で多様なメセナ活動を幅広く顕在化させると共に、顕彰によりメセナの意義と重要性を広く社会に周知する。これらの制度により、メセナに取り組む企業・団体を奨励し、一層の活動の充実に寄与する。

■ 事業内容

1. 認定事業「This is MECENAT」

多様な企業のメセナ活動を可視化し、裾野を広げることを目的に 2014 年に設立した認定制度。「これぞメセナ」と認定された活動には、シンボルである「メセナマーク」を年度毎に発行し、専用サイト「メセナアーカイブ」に蓄積するほか、顕彰事業「メセナアワード」と連動して運営。

2. 顕彰事業「メセナアワード」

1991 年に創設した、優れたメセナ活動を顕彰する事業。「メセナアワード 2015」より、「This is MECENAT」と連動して運営。認定年度の翌年に、特に優れた活動 7 件(メセナ大賞 1 件、優秀賞 5 件、特別賞:文化庁長官賞 1 件)を選考し、受賞活動に対して、表彰状とトロフィーを贈呈する。[文化庁後援]

※This is MECENAT およびメセナアワードの審査・選考は、協議会が委嘱した外部の有識者によって行われる。

■ 課題

「This is MECENAT」「メセナアワード」を通して、より多様な活動を発掘しメセナの裾野を広げる。

■ 重点施策

1. 「This is MECENAT 2020」

① 様々な団体とのネットワークを強化。メセナ活動の裾野拡大を図る

「This is MECENAT」の認定がメセナ活動の第三者評価として定着しつつある点をアピールし、会員の半数以上が登録をするように促進を図るとともに、引き続き実態調査回答企業・財団などにも呼びかけを行う。また、地方の登録を増やすべく過去のアワード受賞地域など、重点地域を決めてメセナ活動を調査し、地方自治体や商工会議所、メディアなどにアプローチする。これらのネットワーク強化により、認定活動の裾野を広げることを目指す。

② 多様な発信媒体の活用による認定メリットの強化

会員の認定活動については、継続してアート&カルチャーへの掲載をはじめ、メールマガジンや SNS での配信、メセナライターのトピックス記事としても取り上げるなど積極的な情報発信を行う。また、外部の配信サービスを引き続き活用するとともに、地方紙・業界紙・過去関係したメディアへの個別リリース、NPO や関連団体への広報協力依頼など、より認定メリットの強化を目指す。

③ 「This is MECENAT」専用サイトの位置づけ、レイアウトの再検討

ウェブサイトについては、利用状況に合わせてサイトの位置づけを明確にし、まず登録者が申請しやすい仕様を検討する。また、協議会ウェブサイトとの相互リンクなど、「活動を協議会が認定している」ことが明確にわかるようにする。過去の認定活動については、全体のレイアウトを見直し、アーカイブを目的に最適な場所に入れ替えることを検討する。

2. 「メセナアワード 2020」

① より多様なメセナ活動の発掘・顕彰

2015 年度から導入している認定・顕彰部会による推薦制度を継続していくほか、過去受賞歴のある活動で再度応募する場合については受賞後の発展や広がりについて記載するようにするなど、申請のためのガイドラインを作る。現在行われている多様なメセナ活動の発掘・顕彰を目指し、「メセナアワード」の選考会では、様々な特徴を持つ活動をより理解しやすいように、情報収集と現場視察に努め、より充実した情報提供に努める。

② 受賞活動の発信を促進

受賞活動について、10 月を目途に広報と連携して記者発表会とプレスリリースの配信を行い、11 月下旬に贈呈式を行う。式典では、できるだけ受賞各社・団体の経営層に登壇していただけるよう働きかけるほか、周年記念として、30 年間の「メセナアワード」のあゆみを伝えられるような内容についても検討する。贈呈式後は、スピーチの Web 掲載や取材等につなげるほか、セミナー・ネットワーキング事業と連携し、好事例として講演会や視察なども開催する。

3. This is MECENAT / メセナアワードの今後について

事業運営などについては、認定・顕彰部会や審査会での意見を受けて、申請書類の内容やメセナマークなどについて、少しずつ改善を試みている。今後も会員はじめ関係者、関連団体などとさらに連携しながら、まず出来るところから改善を行い継続して検討を続けていく。



This is MECENAT 2020／メセナアワード 2020 ロゴ

メセナアワード 2018 贈呈式

[This is MECENAT／メセナアワード実施要領]

- ・This is MECENAT 2020 募集時期：2020年3月～5月
- ・メセナアワード2020 エントリー〆切：2020年5月末
- ・審査委員長：検討中
- ・審査委員：佐倉 統（東京大学大学院情報学環 教授）＊
 中島 信也（東北新社取締役／CM ディレクター）
 仲町 啓子（実践女子大学文学部美学美術史学科教授）＊
 萩原なつ子（立教大学社会学部／大学院21世紀社会デザイン研究科教授）
 尾崎 元規（企業メセナ協議会理事長）
 ＊新任の審査委員を1名補充予定
- ・メセナアワード2020 贈呈式：11月下旬予定

【会員ネットワーク | セミナー】

■目的

会員相互の情報交換と交流の促進、研鑽の場を提供し、企業とアート NPO・市民団体・文化政策に携わる国や自治体・教育機関等組織をつなぐ活動を行う。「メセナ」に関する中間支援団体として、プラットフォームづくりを通じ、相互交流の促進を目指す。

■事業内容

1. 会員ネットワーキング活動の実施

新入会員の顔合わせの機会として「新入会員ファーストミーティング」を実施するほか、会員の関心が高いメセナの現場を視察し研鑽を深める「会員ネットワーク勉強会」「メセナ美術部・メセナ音楽部」「会員交流会」などにより、会員各社・文化関係者の交流・ネットワークづくりを促進する。

2. セミナー、講演会等の企画・実施

調査・研究、認定・顕彰、助成など基幹事業と連携した各種セミナーのほか、メセナ・文化政策等に関するセミナー、講演会を企画・実施する。

■課 題

1. 会員各社団体・文化関係者に向けてタイムリーで多様なイベントの開催、ネットワーキング活動の活性化
2. 年間を通じた協議会ならではのセミナーテーマの設定、国内外における先進的事例の紹介
3. ウェブサイトを通じた効果的な発信の強化

■重点施策

1. よりタイムリーで多様な会員ネットワーク活動の企画・交流機会の設定

会員ネットワークの各活動について、タイムリーでより多様なテーマで企画を設定し、できるだけ多くの会員への情報提供や意見交換を深められる場づくりを目指す。また、フィールド視察などを通して地方メセナの現場を訪問し、首都圏のみならず、地方会員との交流機会を設ける。引き続き、会員ネットワーキンググループのメンバーを補強し、グループの意見をふまえながら様々な会員ニーズを反映したイベントを実施する。

2. 年間を通じたセミナー開催と国内外における先進事例の紹介

- ① 調査研究事業との連携セミナー・報告会
- ② 文化政策系セミナー(国内外および地方自治体における文化政策の動き)
- ③ 助成事業との連携セミナー(寄付、税制、法律、ファンドレイジング、フィランソロピー全般等)
- ④ 文化と経営等をテーマとする講演会(企業トップ、メセナアワード受賞企業、国内外文化人)
といったテーマを柱に、各事業の知見を活かしたセミナーを引き続き開催する。また、30周年記念としてSDGs時代における企業メセナについての特別講演会及び交流会を実施する。東京オリンピック・パラリンピック後の文化支援の動きや、諸外国の先進的取り組みについて学ぶとともに、日本の企業メセナを紹介する企画なども検討する。時代のニーズを捉えながら、テーマ・ゲストの選定を行い、会員各社・団体はじめ、芸術文化振興にかかわる内外機関と連携して、適宜、質の高いセミナーを行う。

3. リニューアルサイトでの効果的な発信・会員サービスの検討

セミナーやイベントで得られた知見・実例等のレポートは、現在ウェブサイトを中心に蓄積・発信しているが、より効果的な発信につなげられるように、情報公開方法について他の様々な例など

を参考にしながら検討を加え改善していく。各種イベントの料金体系については、引き続き会員／非会員を含め、適正な設定の在り方の検討を行う。

【相談・協力 | コンサルティング】

■目的

コーディネート、コンサルティング機能を強化し、企業や文化芸術に関わる諸団体の活動に寄与し、活発化させる。アート NPO や市民団体、文化政策に携わる国や自治体、教育機関等からの相談・協力依頼に積極的に対応し、セクターを越えた文化振興プラットフォームとしての役割を果たす。

■事業内容

1. 企業、文化団体やアート NPO からの相談対応、コンサルティング業務

「メセナよろず相談日」等の実施により、会員をはじめ企業・企業財団、民間の文化団体、自治体等からの相談に対応する。

2. 企業・自治体等からの文化事業の受託・実施

3. 諸団体からの講演依頼、評価委員等の受託

自治体、大学、文化団体等からの講演、審議委員等依頼に対応する。

■課題

1. コーディネート、コンサルティングにおける、事務局内リソースの活用と、提案力の向上

■重点施策

1. メセナの専門機関として、企業を中心に幅広く文化セクターなどの相談に応じる

四半世紀にわたり蓄積してきた協議会ノウハウ・ネットワークを活用し、メセナの専門機関として、企業を中心に幅広い相談に応じるとともに、文化団体やアート NPO、企業との連携を望む自治体等をつなぎ、パートナーシップによる芸術・文化振興を推進する。

2. 事務局内の柔軟な体制による、提案型のコンサルティング実施

各相談案件のテーマに最適なチームづくりと、各事業のノウハウ・知見を活かした提案を行う。

3. 「全国メセナネットワーク」への協力（2020年4月～2022年3月）

全国メセナネットワークは、1998年に国内各地のメセナ関連団体の相互交流、情報交換、協

力などを図り、各団体それぞれのメセナ活動を促進し、地域の文化振興に寄与することを目的につくられた会で現在会員数、12 団体で、本年から協議会が幹事(1 期:2 年間)として事務局を担当。年 1 回行われる総会、会員交流会の企画運営、会計処理などを行う。

4. 2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化の祭典への取組み

協議会ならではの機会をとらえて、会員企業・団体の活動に光をあてる取組みを推進する。

【助 成】

■目 的

芸術・文化活動に対する企業・個人からの寄付を促し、特定公益増進法人の特性(寄付金の税制優遇の適用)を活かした制度運用を行い、寄付者と活動者との間をつなぐ役割を担うことで、芸術・文化の振興を図る。

■事業内容

1. 2021 芸術・文化による社会創造ファンド[2021 Arts Fund]

2020 年以降も見据えた、社会創造につながる創造性あふれる芸術・文化活動への寄付を促進し、寄付者の意向に沿った支援プログラムのコーディネートおよびファンドの運営を行う。

2. 助成認定制度

特定公益増進法人の特性を活かした制度運用により、支援者は寄付をしやすく、活動者は寄付を集めやすくすることで、芸術・文化活動への民間寄付を税制面から促進する。芸術・文化団体(活動者)の申請を受けて、審査および活動の認定を行う。(現在、当制度へ申請できる活動は総事業費 3,000 万円以内、総寄付額 1,000 万円以内が対象となっている。)

3. 芸術・文化による災害復興支援ファンド[GBFund]

東日本大震災の発災をきっかけに、芸術・文化による復興ファンドを設立。趣旨にご賛同くださった寄付者の方々とともに、被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術・文化活動や、被災地の有形無形の文化資源を再生する活動などの支援を行う。

■課 題

1. 芸術・文化団体にとって助成制度をよりわかりやすいものにする。

2. 2021 Arts Fund による目的別ファンドの設置について、寄付者の要望に応じた柔軟な対応を可能とするファンド設置～運用へのスムーズな導入と運営方法の改善。
3. 助成事業の Web システム「かるふぁん！」システムの改良
4. 助成事業のデータベース(寄付情報・芸術団体・活動情報等)の活用
5. 芸術・文化団体への助成制度利用の普及

■重点施策

1. 助成事業の体系化

- ① 活動者の利便性を高め、一層多様な支援が行えるよう、助成事業の一元化を目指し、2021 Arts Fund と助成認定制度の運用について再検討してきた。助成事業全体の体系化骨子案を作成し、2021 年 1 月の運用開始をめざして各種準備を進め、資料や帳票の作成、活動者への案内などを行えるようにする。
- ② 利用者にわかりやすい説明を心がけ、サイトにおける助成制度の理解促進をさらに図るため、各ページの内容を見直すことで、制度説明の問合せ件数の減少を目指し、業務効率化につなげる。また助成事業全体の資料を見直し、わかりやすいものに改善し、活用しやすくする。

2. 助成事業の体系化に伴うシステム改修(かるふぁん！＝活動・寄付管理の Web システム)

助成事業の体系化に伴い変更した内容をシステムに搭載し 2021 年 1 月運用開始に備える。また、寄付管理業務において一部残っている手作業での業務をシステム内に取り込み、一層の業務効率化を図る。アンケートで集まった利用者の声をシステムに反映し、利用者の利便性の向上を図る。

3. 助成事業のデータベースの再度見直しと改修(FileMaker＝事業データベース)

かるふぁん！のシステム改修をうけて、助成事業データベースの再度見直しと改修を行い、寄付情報・活動情報を整理・分析しやすくし、助成事業を PDCA サイクルに基づき行えるようにする。また、事業の効率化だけでなくデータを有効に活用できる形にする。

4. 助成制度利用促進

助成制度の更なる普及を目指し、利用促進計画案を作成する。

2021ArtsFund の更なる目的別ファンド設置推進に向けた標準的モデルの設計や、活動者向けのセミナーの開催、相談窓口の見直しなどに向けた具体的な実施計画を検討、作成する。

【広 報】

■目 的

協議会各事業の取り組み、および会員各社団体のメセナ情報等を広く発信し、「企業メセナ」の周知と多様な価値の見える化、協議会のプレゼンス向上に寄与する。

■事業内容

1. 企業メセナ・協議会の活動に関する国内外への情報発信

- ① プレスリリース配信、メールニュース(月 1 回、不定期)
- ② 協議会ウェブサイト(日英)の管理・運営、コンテンツ制作
「アート&カルチャー」:協議会会員のメセナイベント情報を紹介
「メセナライター制度」:外部ライターによる、メセナの現場・協議会行事の取材レポート
Facebook、Twitter、Instagram 等の運用
- ③ 記者発表会等の実施

2. 協議会発行物の制作・管理

- ① 『メセナアワード』冊子、セミナー報告書等印刷物の制作統括

■課 題

1. 戦略的広報計画および各事業とのさらなる連携強化
2. 会員各社団体、とくに地方会員企業、および地域メセナに関する情報発信
3. ホームページの利便性向上
4. メディアとのコミュニケーション
5. 過去から蓄積してきた発行物やデータなどの資産の整備を進め、協議会設立 30 周年を迎える 2020 年以降、幅広く活用できるように環境を整える。

■重点施策

1. 年間を通じた戦略的、横断的な情報発信

- ① 年間を通じ、協議会の各事業に対応した広報プランを策定し、横断的な視点のもと、タイムリーかつ効果的な発信を行う。
- ② 協議会各事業の成果のアウトプットを確実にいき、アーカイブ化を推進する。
- ③ クリッピングやアクセス解析など事業の発信結果の記録を有効活用できるよう基盤整備を強化し、戦略的広報計画策定・実施につなげる。

2. 会員各社団体のメセナ情報の効果的な発信

- ① すべての会員各社団体を対象に、メセナ情報の掲示板「アート&カルチャー」掲載について継続して積極的な声かけを行い、掲載数の増加を目指す。
- ② SNS・メールマガジン等の他媒体と連動し、効果的な発信ができるよう努める。
- ③ 「メセナライター」制度では、引き続きメセナを発信する人材の発掘・育成につなげるとともに、メセナライターによる「企業メセナ訪問記」を通してメセナを発信し、企業とのコミュニケーションツールとして活用する。

3. 協議会ウェブサイトのリニューアル

- ① 引き続き、みやすく、わかりやすい発信力のあるホームページをめざして、既存ページの再編集の実施および新規デザインでのリニューアルを進め、リリースする。
- ② リニューアル後の検証を確実にを行い、改善を行いながら効果的な運用の最適化を図り、継続して定期的なアクセス解析を行い、ニーズに即したサイト運営のための改善に努める。
- ③ 作業分担の明確化や、管理方法のルール化により、効率的で円滑な運用を実現する。

4. メディアや記者などとのネットワーク形成

- ① メディア関係の名簿を目的毎に活用できる形に整理するとともに、常に最新情報になるよう運用ルールを徹底するなど、基盤整備を行う。
- ② プレスリリース配信の際に内容に応じたターゲットの絞り込みを行い、記者と積極的にコミュニケーションをとり、メディアリレーションの構築に努める。

5. 協議会に蓄積された資産の有効活用

- ① 助成事業でコンスタントなニーズのある、2007年発行のメセナ セミナーシリーズ No.10 「企業メセナへのアプローチガイド」及び協議会設立 15 周年を記念して 2010 年に発行した『「メセナ」を知る本』のリニューアルを行い、発行する。（協議会 30 周年事業の一環として実施）
- ② 「メセナ note」など過去の発行物の PDF データをクラウドに格納し、ライブラリースペースに端末を置き自由に閲覧できるようにする。
- ③ ホームページリニューアルにともない、協議会で作成したコンテンツを可能な限りウェブ上での公開を進める。

Ⅲ. 年間スケジュール

月	事業	組織運営
1月	第5回SOMPO アート・ファンド選考委員会開催	◇賀詞交歓会 1/21@フジファイル ムスクエア ◎第1回運営企画委員会
2月		●第19回通常理事会&第2 回運営企画委員会 2/12@野 村ホールディングス
3月	◇30周年記念講演 3/5@東京コンベンションホール ◇30周年記念レセプション 3/5@東京コンベンションホール ◆助成認定制度&2021 アート・ファンド選考・審査委員会 SOMPO アート・ファンド ネットワークミーティング 2020 ■Mecenat Report 2019 発行	●第32回臨時理事会、理事 改選 ●第10回社員総会 3/5@東 京コンベンションホール
4月	★TIM(This is Mecenat)2020 募集開始	
5月	■調査報告会 ★TIM(This is Mecenat)／メセナアワード応募〆切	
6月	★TIM(This is Mecenat)審査会 ■メセナ・アソシエイト第6期レポート公開 ■メセナ・アソシエイト第7期募集開始 ◆助成認定制度&2021ArtsFund選考・審査委員会 ◇助成・寄付系セミナー開催(予)	
7月	■調査アンケート開始 ◇新入会員 1st ミーティング	◎第3回運営企画委員会
8月		
9月	◆助成認定制度&2021ArtsFund選考・審査委員会 ■調査アンケート〆切 ◇メセナ音楽部(予) ★メセナアワード選考会、受賞活動決定	
10月	★メセナアワード受賞活動発表 ■国際セミナー(予) ○記者発表会 ◇フィールド視察(予)	
11月	★メセナアワード贈呈式 2020	◎第4回運営企画委員会
12月	■調査部会勉強会 ◆助成認定制度&2021ArtsFund選考・審査委員会	●第20回通常理事会&第5 回運営企画委員会